

# コンタクト・インプロヴィゼーション における「身心の状態」に関する研究 —ニナ・マーティンの指導クラスを事例として—

お茶の水女子大学大学院生 福本まあや

## I. 研究目的と研究方法

コンタクト・インプロヴィゼーション(Contact Improvisation, 以下 C.I. と略記) は, 合衆国にて1972年にパクストン (S. Paxton, 1939-) が始めた即興の形式である。想像的な実践と高度なスキルを要求するこの形式は現在, 欧米を中心にダンス・スクールや演劇学校に広く訓練法としてとりいれられている。ノヴァック (1990) はパクストンが実践者とともに多様な形式をとりこみながらその指導法を展開したことを指摘しているが, C.I. と他形式一なかでも指導法確立に大きな役割を果たしたと本研究が見ている同時代のソマティック・システム—との具体的な関わりや, 個々の指導者が展開する C.I. 経験の違いについては明らかにされておらず, この形式の理解を妨げる原因となっていると本研究は考える。

本研究では10年前より来日し C.I. の指導を行っているマーティン (N. Martin, 1953-) の指導クラスを事例としてとりあげる。彼女の指摘する C.I. の実践時における身心の状態とは何か, 他形式との関わりを参照しながら明らかにする。

研究に用いた主な資料は次の通りである。

- ① マーティンの C.I. ワークショップ (入門 / 2) への参与観察記録, 2003/8/11-22 受講
- ② マーティンへのインタビュー記録, 2003/8/15 実施
- ③ マーティンの C.I. クラス (入門 / 2) の VTR 記録, 2003/8/11-22 朝倉・福本共同撮影

## II. 結 果

### 1. マーティンの C.I. の特徴

マーティンが提唱し指導する C.I. の実践の特徴は, 初期指導者の記述には見られない4つの独自の特徴が見られる。

マーティンは「部屋にいるということが“コンタクト”を意味する」と言い, 彼女はこの形式における“コンタクト”を, 身体接触にとどまらず空間を共有することととらえている。創始者パクストンは, 恣意的な動きから自由になり他者との接触からうまれる「第3の力」についてゆくことを C.I. の本質として説明しているが, 身体接触に限らないコンタクトの考え方をするマーティンは, 「自らの欲望についてゆく」ことを強調している。また彼女は技術的には360度の空間の気づきを強調する。これは他者との体重のやり取りに集中し, そこにうまれる動きの流れについてゆくことを強

調する初期指導者らとは異なる。さらに彼女はクラスにおいて「他の人とともに踊るということはトリックとかスキル以上にポエムのようなものだ」とくり返し, 共に動くものとの関わりから生まれるポエムをうたうこと, として即興をとらえている。

### 2. マーティンの C.I. に必要とされる身心の状態

マーティンは実践時における身心の状態を, 頭でイメージして動くのではなく「可能な限り身体に近づいて身体についてゆく」状態という言葉で説明し, その状態をキネティック・ステイト (Kinetic State) と呼ぶ。

彼女は1986年にベッカーとともに C.I. とキネティック・アウェアネス (Kinetic Awareness, 以下 KA と略記) の共同指導を始める。KA とはサマー (E. Summer, 1925-) が始めたソマティック・システムで「キネティック・マインドを目覚めさせ, 知性と情動による過剰なコントロールからキネティック・マインドを自由にする」<sup>1</sup>ワークである。

マーティンは, 学生達が KA を通して「怪我を少なく」し「アドレナリン・ラッシュを併発することなく」C.I. にとりくむことができるようになったと述べている。パクストンがリリース・ワークとの関わりからその指導法を展開したように, マーティンは KA との関わりから彼女独自の C.I. の指導法を確立したことがとらえられる。

### 3. キネティック・ステイトをつくりだすエクササイズ—ファシー・ダンス (Fussy Dance)

マーティンはファシー・ダンスを「KA での経験に影響を受けながら自身の試みからつくりだした」と述べる。ウォームアップとして行なわれるファシー・ダンスは, あくびがでるように伸びをするように, 関節や筋肉が欲求する動きが出るにまかせ, 数分間ファス (大騒ぎ) する。重力への気づきを促す言葉がけは見られない。それは身体の各部分を揺すり起こし, 日常生活における直立前方という限られた運動の方向性から身体各部分を開放する運動であるととらえられる。

## III. ま と め

本研究を通して, C.I. とソマティック・システムの関わり的一片がとらえられた。マーティン独自の C.I. は, キネティック・ステイトによって支えられている。その状態は身体そのものが動こうとしている方向へ動くことを受け入れる身心の状態ととらえられた。

i Becker, F. (1993) Kinetic Awareness. Contact Quarterly, 18(2): 54.